

提案全体のタイトル： 次世代に選ばれる「しあわせ先進モデルふくい」の実現

提案者名： 福井県

全体計画の概要：

福井県民が長い時間をかけて培ってきた「安心と信頼の社会基盤」を有し、今また東西南北に大きく広がる高速交通インフラの整備を進めている。これらを最大限に活かし、“くらしの安心”と“社会の活力”、そして“県民の誇り”が相乗的に高まり、好循環を創出する「福井モデル」の確立を目指す。

1. 将来ビジョン

地域の実態

豊かな自然と歴史・文化、安定した産業基盤を有し、地域のつながりが強固。子育て、教育環境は全国トップクラス。自然や文化の保全、コミュニティの維持、多様な価値観を認め合う寛容性、革新的な企業の創出などが課題。

2030年のあるべき姿

- ・自信と誇りのふくい…「ふくいらしさ」を伸ばし、外に開いて人を呼び込む
- ・誰もが主役のふくい…多様な個性を大事にし、みんなが自分らしく輝く
- ・飛躍するふくい…変化をチャンスに、しごととくらしを創造

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット

(経済面) 地域産業に技術革新とデザインを結び付け、新たな価値を生み出す産業をつくる
(社会面) 千年を超える歴史・文化やオンリーワンの魅力に磨きをかけ、「楽しさ」と「交流」を大きく広げる
(環境面) 原子力に加え、再エネ・省エネを推進することで、環境エネルギー先進エリアを形成する



自治体SDGsに資する取組

- 1 産学官の連携による地域人材の育成
- 2 新技術とデザインによる「価値づくり」産業の創出
- 3 個性を引き出し、学びを楽しむ教育の推進
- 4 関係人口の拡大
- 5 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現
- 6 エネルギー資源と循環型社会の構築
- 7 里山里海湖の保全・再生と活用
- 8 ふくい発「健康文化」の創造

情報発信

- 【域内向け】
「福井県SDGsパートナーシップ会議」のネットワークやフォーラム等を通じた発信、オリジナルロゴマークの活用、地元マスコミとの連携
- 【域外向け】
HP、SNS、全国知事会議等を通じた発信
- 【海外向け】
JICAとの連携、Fukuiレポーターズを通じた発信



普及展開性

地域の独自性や特長の維持・発展はあらゆる地域の課題であり、「幸福度日本一」の本県において「継承」と「創造」両立して好循環を創出することは、他地域のモデルとなり得る。

各種計画への反映

令和2年7月策定の「福井県長期ビジョン」では、SDGsの理念に沿って将来像を描き、各施策・KPIをSDGsの体系に沿って整理している。環境基本計画をはじめ、個別計画においても、SDGsの理念を反映し、各施策に関連付けている。

行政体内部の執行体制

「福井県長期ビジョン」の実行を推進・調整するために設置している「福井県長期ビジョン推進本部」において、全庁的にSDGsの推進を図る。

ステークホルダーとの連携

- 【域内外の主体】
SDGs推進のための官民連携プラットフォーム「福井県SDGsパートナーシップ会議」を通じ、県内企業・団体・教育機関・自治体等の多様な主体と連携を図る
- 【国内の自治体】
県内市町および「将来世代応援知事同盟」の構成県とも連携
- 【海外の主体】
姉妹都市(中国浙江省)と連携

自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

県内の金融機関と連携して「福井県SDGsパートナーシップ会議」のネットワーク拡大を図るほか、SDGsに関する企業対象のセミナーや子ども・学生を対象とした金融経済教育を実施し、SDGsへの理解を促進することにより、自律的好循環の構築を進めていく。

2. 自治体SDGsの推進に資する取組

3. 推進体制